厚◯省不許可
特定嗜好読本

名器

# ブルマニア

ヨーグルト[redacted]ぶっかけ

ヨーグルトの正統

# 名器ブルマニアヨーグルト弐

～ひじょうぐち～

# まえがき

帝 はじめましてかお久しぶりの帝王(以下帝)です。
なんとか、ブルマニア2の制作にこぎつけるコトができました――!!
こんかいは予告どおり、さくら本ですミ
キチークにはならなかったけド、さくらです。

鄭 はじめまして。もしくはおひさしぶりです~。のDARKSIDE・G(以下鄭)でございます。
やっと、2を出すことができました。
今回も私はオリジナルで行きますです。
自分的にはキチークに仕上げたつもりですが、
いかがなものでしょうか?

帝 なんかじいさんの小説がだんだんコワレていいかんじですなぁ――
わし、あのご主人が気の毒でならんがね(笑)

鄭 ええ。私も同感ですね。(笑)
毎日まいにちあ~も~ことしてると
体がもちませんがな。ってお感じですね。

帝 小生におぼれるとロクなことがナさそーですわ。
今回は2人とも増ページでおいしいかな~
そのぶんいつもより大変だったけどね。
たのしいしゅらばでしたワ♡(涙)

鄭 はっはっは。(汗) 〇週間連続朝帰りでしたからねえ。
でも、中身の濃いしゅらばタイムだったと思いますね。
次回こそは、今回の反省をふまえ、早めにかンコーを仕上げ…る訳ないか…(笑)

帝 なんかげんこーのことばっかりかきますのう…ココ。
ところでこれからきんじょでブルマーギャルがみられる季節ですよて だんなーっ

鄭 うひょっす! いいっすね~。私としては、
いつぞやの時のような近くの河原で
ブルマラソン大会など行なっていただければまうこと ナンですが…

帝 東、運転してるときはよそ見しないよーに。
まぁ、でもブルマラソン(うまい!)は
ゆるしてあげよう。
…というわけでブルマにかたよったストーリーをおたのしみいただけるとコレさいわいですミ

では、またおあいしましょー。

よりによってまえがきのイラスト
わすれてたナリ――じゃ ひえーん8

今日は変だ・・・
生理が近いのかな？
Hな気持ちが止まらない・・・

いいや，少し・・・だけ
・・・あっ，あっ！
ブルマーがこすれて
気持ちいいっ！！いいっ！！！
くちゅ，くちゅ
にちゃ，
リュウさんっ，リュウさぁん！
リュウさぁぁぁんっ！！

いっ！
いくうううー…
しゃああああ

ねーねー？
さっきから
そこ，開かないね・・・
しーっ！
きっと「大」ょ（笑）
うっ，ブルマが濡れちゃって，
外出れないよー。
乾いたら
さっさと帰ろう・・・

藍・戦士
TEI-OH"K"TAKAMURO.

注):下校中ゆえ、グローブつけてません。

かりんさん

お待ちなさい
さくらさんっ

ワタクシ、
貴女に
絶対勝つ方法を
考えましたのよ

えっ・・・?

つけペン 去年のげんこーふん来・・・・(汗)

平野耕太先生パンチラーイ!!

成分調査。

抵抗力，

吸収性。

フェチ度まで

そこまで考えてらしたのね？

私も ブルマをはきましたわ。

だから，この勝負，いただきますわっ

ちょ，ちょっと待って・・・

問答・・・無用!!

負けました。

かりんさんっ！

ゴゴゴゴゴ…

ど、どうして

ギゅっ

ドゴ

スカートはかせてほっか

きゃあああ

この私がーーーーっ！

これが・・・？

ギュッ
濡れてる
じわぁ…っ♡
ごごプロローグとリンク
あっ、こ、これは違うのっ。
ぁぁ…
・・・・・・！
スカートぶんしっぴけん…。
パチン
これはっ！
えっ？
ええっ
ええっ
これからこ日…
ドさま侍制言設になりくのど
みなさまンィュとおわかいモ
ごゴ協力してカンまより、すこ
ドにンは神月家
15

玉川南

私，ずっと貴女を見てきましたの。
・・・・・

ライバルを思う気持ちって・・・

前ページの板に布をかぶせていると思ったとくれ(笑)
人払いさせましたわ。
これで邪魔は入りません。
このカーテンもあるコトですし♡

恋愛に・・・似てるのかもしれませんわ
元・少女まんがわ 描きました・・・・(ナナ)

!!?
んっんっ
んうう——

ゴクンッ

やぁっ

何 飲ませたの かりんさんっ！？

無理強いは 好きではありませんの。

じょ，冗談でしょ？ 私たち女・・・

ガクン

かっ，身体に 力が・・・・・！？

ふふ、いい眺めね・・・
するり・・・
普段は
こんなシーン拝めないから
余計そそりますわ
こりっ
こりっ
ひゃあ
びくW
ぷるるん。
私と会う前、
オナニーしてらしたでしょ？
くすくす、匂いと湿り気で
わかりますわ。
びくんっ
びくんっ
びくんっ
こりっ
こりっ
こりっ
こりっ
やぁあ、それはぁあ！

ふるふる
あ、あ、
私は貴女を倒すために必死ですのに貴女は
オナニーなんて、気楽ですわ、ね！
ああ!!
ぐい
びくんっ
そんなさくらさんを犯して差し上げますわ。

お金持ちの道楽
・・・みたいなものですわね

うふっ、
挿れますわよ



いやあ
あああっ

あら？

初モノでしたのね、さくらさん。

ズチュッ

あっ

あっ

ドチュッ

初めて・・・なのにいっ気持ちいい・・・っ・・・

あっ、あっ、あっ、あっ、あっあああ！

ズプッ

ズプッ

ズプッ

ズプッ

ズブ！

ひゃあぁん

ビクッ！

感じでいらっしゃるみたいですわね・・・

ドッ

ドッ

ぴく、
ぴく、
いやあああ
ああああっ
ズプ
ズプ
ぷぷっ
ぷぷっ
駄目ですわ、
私まだなんですから・・・
だめぇ
がまんで・・・っ
ビクン
ビクン
んふうう
ーーっ!!
ビクン
ぷぷっ
ぷぷ!

軽くイキましたわね？

じゃあ、そろそろ
さっきの薬の効き目
本領発揮ですわょ

あ・・・

あぁ・・・かふっ

ぴくん

ぴくん

ズル

ズッ

ズッ

あああああっ?!
おチンチンがっ

さぁ！一緒にイキますわよ
いやあぁぁぁぁぁぁぁぁっ
大丈夫ですわ、何百回かブピュブピュはしたなく射精したら消えますもの
さぁ、遠慮なく出すのですわ！

ドピュッ
ドピュッ
ドピュッ

ひゃあああ
あ・・・あ・・・っ
あ・あん♥

ビッ
ビッ
びくっ!
びくっ!
ビッ
ビッ
ビッ

ビッ・・・ッ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ

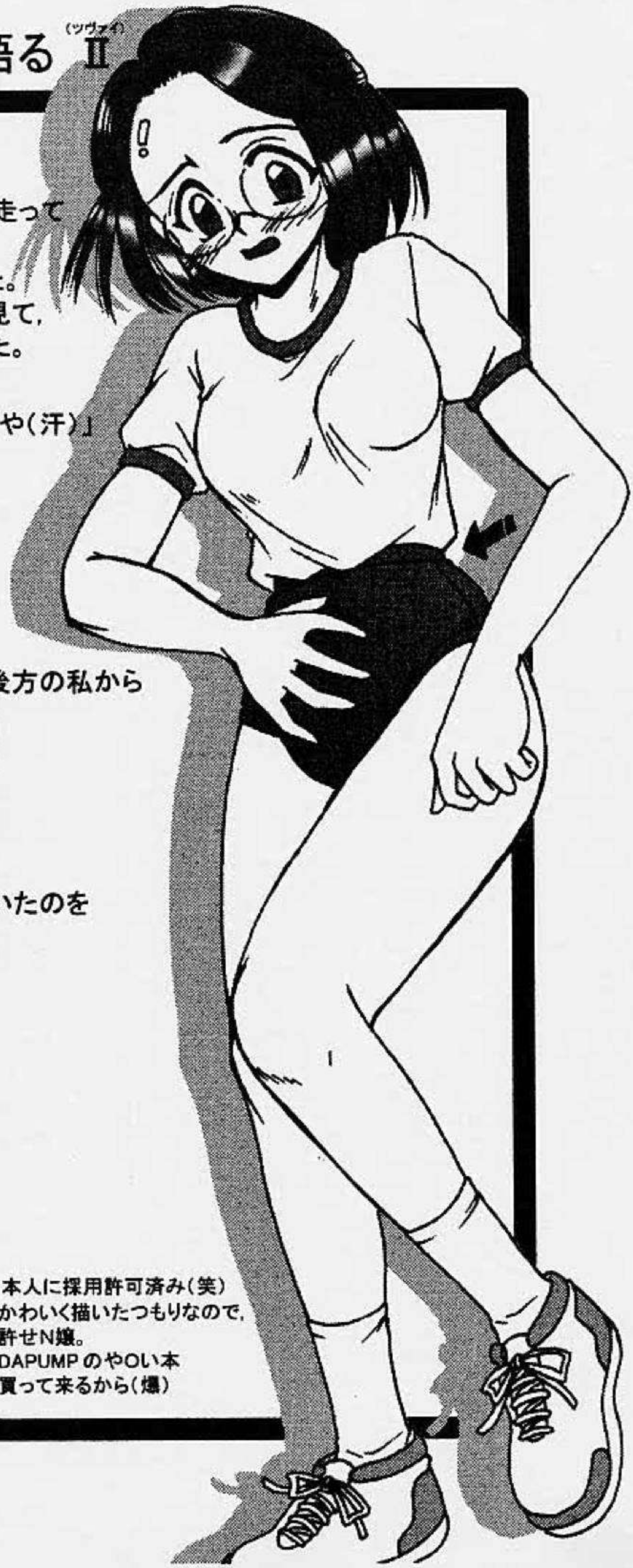
・・・強さと

ブルマは
関係・・・ないんじゃ
・・・

END
ギャフン

'01.06.21
TEI-OH "K"
TAKAMURO

# 帝王のぶるまを語る（ツヴァイ）Ⅱ



高校時代の話です。
体育の授業の時，校庭を走って
いたところ，
友人「Nちゃん」がいました。
前方を走っている彼女を見て，
何か「違和感」を感じました。

「あんた，ブルマが前後逆や（汗）」

そう，メーカーのタグが，後方の私から
丸見えだったのです（笑）
Nちゃんは，必死でタグを
隠していましたが，
無駄な努力でした（笑）

結局，授業の終わりまで
穿き直さずにがんばっていたのを
覚えています。

＊本人に採用許可済み（笑）
かわいく描いたつもりなので，
許せN嬢。
DAPUMPのやOい本
買って来るから（爆）

早朝。まだほとんどの生徒が登校していない校内。
私は下足室に呼び出されて、お姉さまにチェックを受けます。
お姉さまは私を見つけ、辺りに人の気配がないことを確認するや否や、
唇を重ねてむさぼる様に吸い付くと、私のスカートをめくり上げ、モーターが水中でうなる様な音を確認するのです。
ブルマが張り付いてバイブの動きが解るぐらいヌルヌルになった内股を満足げに眺めたお姉さまは、にっこりと微笑むと
突然、股の間に差し入れた膝を蹴り上げるようにして、膣口から顔を覗かせていたバイブを押し入れてきたのです。
「!!!!」
一瞬、身体に楔を打ち込まれたような苦痛と快感が襲い、私は悲鳴のような喘ぎを発しながら、一気に昇りつめます。
その様子をお姉さまはうっとりした表情で眺め続けると、今度は一気にバイブを抜き取るのです。
「く・・はぁ」
ずらされて半分ほど股間が露出したブルマの隙間と布地から、尿が力無く流れ落ちてゆきます。
私はそれを止めることができず、
恍惚とした意識の中で、ただその様子を見つめ続けていました。
そして、お姉さまは嬉しそうに愛液と尿で水浸しになった私のブルマを取り去ると、
私に一日中身につけているようにと、1本のディルドーと自分が穿いていたブルマを手渡すのでした。

もうすぐ授業が始まります。最初の科目は体育です。
私は、先ほどお姉さまから頂いたブルマを穿いて、授業に臨みます。
お姉さまの穿いていたブルマは私の学年用のもので、すこしぬくもりが残っていて、
股の部分にかすかに漂う淫らな残り香が、お姉さまも感じていたことを証明しています。
私は、それを身につけているという感覚だけで、たまらなく濡れてしまいます。
でも、それだけではいけません。ディルドーも挿入しなければならないのです。
鈍い艶のあるゴム製のそれは、内部にスポンジの様なものが詰められており、
バイブの様に動かないかわりに、締め付けると強力な液状の催淫剤が膣内に溢れ出るしくみです。
私は、授業の直前にそれを膣内にうずめます。
予鈴の鳴る女子トイレで、ブルマを膝までおろし、秘部の裂け目に指を添えてディルドーをそっと膣口にあてがいました。
亀頭部分から滲み出た催淫剤が、膣の入口をぬめらせながら、ゆっくりとヒダの内側に侵入してきます。
挿れはじめにわずかにキツさを感じたものの、ディルドーはすぐに私の膣の奥まで飲み込まれていきました。
その快楽ににわかに自虐心に火が付いた私は、立ち上がってブルマを穿くと、わざと股間を思いっきり食い込ませます。
直穿きのブルマの裏地がクリトリスを擦り上げ、ディルドーがさらに奥まで押し込まれる快感に、
必死に声を殺しながらもヒダをヒクつかせながら絶頂ってしまい、腰の力が抜けて、便器に座り込んでしまいました。
私はぐったりした身体を起こすと、余韻に身震いしながら、トイレを出て運動場にふらふらと歩みを進めるのでした。

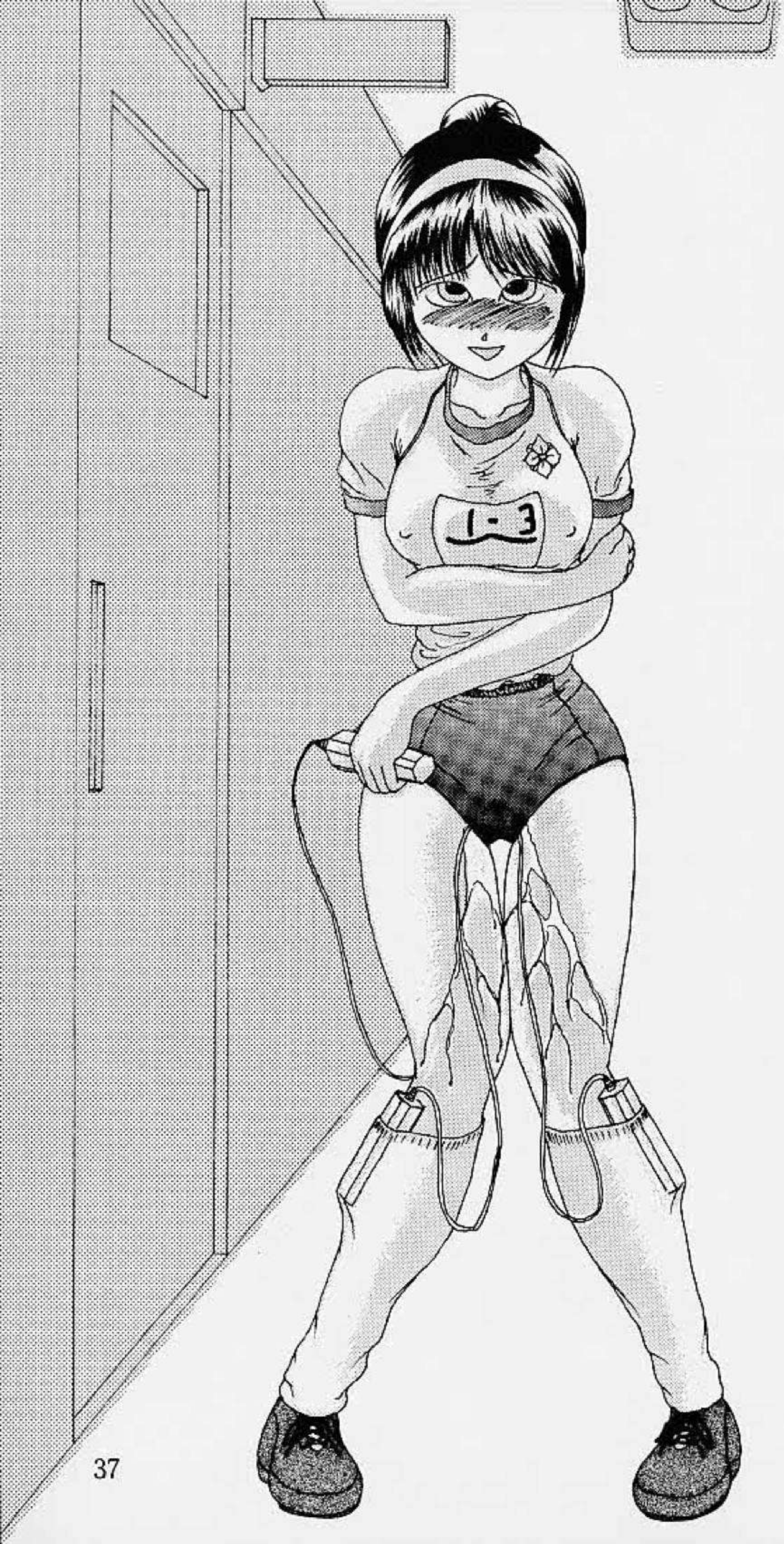
授業が始まりました。今日の授業内容は長距離走です。
私は、先ほどお姉さまから頂いたブルマを穿いて、授業に臨みます。
準備体操を行なう間も、先生から説明を受けている時も、ディルドーは私の膣内を突き上げ、攻め、弄びます。
少しでも気を抜くと、その焦らすような攻めに、私は立ったまま絶頂ってしまいそうになってしまいます。
説明が終わって、グラウンドに走り出しました。
足を上げる度にクリトリスが直履きのブルマの裏地に擦り上げられ、太股を交互に前に出す度にディルドーがさらに膣の奥をつつきます。
その刺激と快楽に、私は思わず気を失ってしまいそうになってしまいます。
走り続けるほど膣内のディルドーが圧迫され、催淫剤がじわじわと私の秘肉に染みこんできます。
周囲の視線を意識するだけで私は興奮し、羞恥と快楽に蝕まれて、だんだんとペースが落ちていきます。
トラックを三周ほどする頃には、もう私は足を前に出せないほど感じきってしまっていました。
すでにブルマには大きなシミが広がり、いやらしい雫が内股をぬめらせています。
内側は愛液と催淫剤であふれ、シミがブルマ全体に広がっています。
快楽に打ち震え、立ち止まった私に先生が声をかけ、心配そうに肩をたたかれると、
私の身体は待ちかねていたように絶頂に達し、そのまま気を失ってその場に倒れ込んでしまいました。

1-3

授業中に倒れてしまった私は、保健室に担ぎ込まれました。
あいにく、校医の先生が不在だった為、とりあえず安静にしている様に、とベッドに寝かされました。
しかし私は、先生が保健室から姿を消すのを確認すると、すぐにベッドから抜け出してしまいました。
私は、先ほどの快楽をもう一度味わいたくなって、窓際の机に向かいました。
窓の外には校庭とグラウンドが広がっています。
私は机の上に上がると、前のめりに窓に寄りかかりました。
目一杯に大股を広げ、ブルマを横にずらすと、先ほどからずっと膣内を掻き回し、
出口を求めていたディルドーがいやらしい裂け目の間から顔をのぞかせます。
右手は窓に手を付いて身体を支え、左手でディルドーをつかむと、ゆっくりと抜き取ります。
ひんやりとした外気が淫唇にふれ、白濁した愛液と、ディルドーから吹き出した催淫剤が混じり合った粘り気のある液が絡みついています。
私は体温で暖められ、ぬるぬるになっているそれを膣口のヒダにあてがい、
なぞらせるようにこすりつけると、すぐさま膣の奥に突き入れます。
外気で表面が少し冷えたディルドーが熱い膣壁と擦れ合う快楽に、私は身をよじらせて悦びます。
窓の外は背の低い植え込みがあるだけで、中の様子は目を凝らせばグラウンドからでも丸見えです。
私は、窓の外のグラウンドで授業を受ける生徒に見つかるかもしれないという緊張感と、
それが与えてくれる暗い快楽にたまらなくなって声を上げてしまいます。
「はあっ、見てっ！いやらしい私をっ！」
「私、保健室でオナニいしているのっ！」
「窓に張りついてっ、みんなにっ、みてほしくてっ、こんなオモチャ、ズポズポしてるのおっ！！」
「いやらしいお汁、とまんないっ！はあぁっ、みてっ！視姦してっ！わたしっ、イクっ！！私、わたしいっっ！」
左手のピストンが早くなり、呼吸が荒くなってきます。
私は自分の高ぶりを感じると、ディルドーを子宮口に当たるぐらいに深くまで突き入れました。
「ぐっあぁっ、あぁあぁあっっ！！」
悲鳴のような歓喜の声を上げ、膣口からディルドーが飛び出ると同時に、
ショットガンの様に愛液と薬液を噴き散らして、私は、机の上で浅ましくのぼりつめてしまったのでした。

1-3

午後になりました。
快楽にむせび、ぐったりとベッドで横になっている私をお姉さまが迎えにいらっしゃいました。
私はベッドから起き、先ほどの自慰の為に膣内から飛び出たディルドーを、
抜けた経緯を説明するとともにお姉さまに差し出すと、お姉さまは中の催淫剤が出尽くしたことを確認し、嬉しそうに微笑みました。
そして、粘液でベトベトになったディルドーを口に含み、男の人にフェラチオで奉仕する様に愛おしそうに舐め回すのです。
私の味をひとしきり楽しむと、今度は一緒に持ってきた鞄を開けました。
私を立たせて、ぐっしょりと濡れたブルマを引き下ろすと、バイブレーターとパールローターを鞄から取り出し、
ローターをバイブで押し込むように私の膣に深く沈めました。
そしてさらにお尻にもう1本バイブレーターを挿入したのです。
お姉さまは膣に挿入されているバイブとローターの振動スイッチを入れると、電池ボックスを両足の靴下に差し込み、
お尻の穴に沈み込んだバイブの電池ボックスを私の手に握らせました。
私たちは支度を終えると保健室を出て階段を上がり、渡り廊下を渡って二階の教材準備室に向かいます。
お姉さまの「ご主人様」に会いに行く為です。
そこでは、お姉様と一緒に調教を受け、お姉様と交わり、乱れあうことができます。
とろける様な悦楽の時間が待っているのです。
もちろん、廊下に面した教室は授業の真っ最中であり、私はローターとバイブ二本刺しの状態でその前を通り過ぎなければなりません。
でも、お姉さまは知っているのです。
わたしが、それを望んでいる事を。
そして、私が視線に濡れ、羞恥に震えるのがたまらなく好きなマゾだと言う事を。
私はお姉さまとともに、階段の踊り場からゆっくりと廊下を進んでいきます。
私が膣内でうねるバイブの動きに悶えながら歩いていると、それを見てお姉さまがそっと後ろから抱きしめてきました。
電池ボックスを持つ私の手をお姉さまの手のひらが包み込みます。
お姉さまは私の耳元で暖かい吐息をもらしながら囁きました。
「さぁ・・がんばってね」
お姉さまはそう言うと突然、私の手をきつく握りしめ、バイブの振動スイッチを最大に引き上げたのです。
「!!!!」
声にならない叫びが起こり、肉の壁を一枚隔てて、前後のバイブが激しくぶつかり合います。
突然の激痛とその快楽に私は反射的につま先立ちになり、そのままビクビクと身体を打ち震わせて達してしまいました。
お姉さまはその様子を淫靡な目で見つめ、満足そうに微笑むと、くるりと背を向け、そのまま一人で歩いていきます。
私は力の入らない足で内股になりながら、必死にお姉さまについていくのでした。


1-3

教材準備室に着きました。ここにお姉さまの「ご主人様」がいらっしゃいます。
ご主人様は私達を招き入れると、早速「調教」を始められました。
私とお姉さまは縄で縛られ、互いのブルマの股間の部分にに切れ込みを入れられます。
ご主人様は私たちを開脚状態にしてお互いを向かい合わせ、
私の秘部から振動したままのバイブとローターを抜き取ると、何かの薬ビンと双頭のバイブレーターを取り出しました。
バイブは電動で、リモコンで遠隔操作ができるうえ、お姉さまから手渡されたディルドーと同様に、内部に薬液が染みこんでいるようです。
ご主人様は薬ビンからクリーム状の液体を手に取り、バイブに塗りつけると、私とお姉さまの秘部が露見している股間にあてがいました。
二人の濡れそぼった淫唇は、何の抵抗もなくすんなりとバイブの進入を受け入れ、その姿が見えなくなる位、奥までくわえこみ、腰と腰が合わさります。
そして、ご主人様は大腿同士を動かないようにきつく縛り上げると、おもむろにバイブのスイッチを入れられたのです。
バイブは生きもののように動き出し、私の膣内を、お姉さまの膣内を突き、掻き回し、うねり、震わせます。
それと共に中の薬液が染み出し始めました。
どうやらそれは、先ほど外側に塗られていたクリーム状の液体と膣内で何らかの反応を起こす媚薬のようです。
膣の締め付けにより、中の薬液が絞り出される度に傷口に消毒薬がしみるような痛感があり、それとともに異常なほどの性感が湧き出るのです。
私とお姉さまは、時には秘部でバイブをくわえ込んだまま引っ張り合い、
時にはお互いの膣のより奥まで押し込もうと、縛られたままで無心に腰をぶつけ合います。
膣壁の粘膜が薬液を吸収し情欲と性感が加速度的に沸き上がると、二人とも必死になって、快楽をむさぼりあいます。
本能だけで腰を突き動かし、最後には痛覚の有る度に、何度も何度も絶頂にかけのぼっていたのでした。

2-4

気がつくと、度重なる絶頂でいつのまにか気を失っていた私たちの周りを、
知らないうちに隣の部屋から入ってきた大勢の男の人たちが取り囲んでいました。
ご主人様は私とお姉さまをさっきとは違う体勢で再び拘束し、双頭のバイブを抜きとると、絶頂の余韻でぐったりしている私たちに何かを注射しました。
部屋の奥にある机の上には開封された粉薬や薬ビンがあり、それを視界のすみで捉えたお姉さまは、その内容を知っているのか、
恍惚とした目で私に嬉しそうに笑いかけました。
途端に私の身体が熱くなり、目の前に霧がかかったようにかすみ、身体中が「男の人」を欲しがる様になってしまいました。
それはお姉さまも例外ではなく、身体を震わせて、物欲しそうな目で男の人たちを見つめています。
さっきまでの余韻にヒクついていた膣口が別の生き物のように蠢きだし、愛液が糸を伝うように流れ出します。
「はあ・・はぁっ、ダメっ、もう・・我慢・・できないっ・・」
「犯し、て・・犯して・・ください。」
「お願いです・・・私を、わたしをっ・・犯して・・犯してくださいっ!!」
男の人たちがニヤニヤと笑みを浮かべながら近づいてきます。
ある者は指で私の淫唇を目一杯に拡げ、男根をあてがいます。
ある者はお尻の穴に男根を突き入れます。
私は歓喜の声を上げながら淫らな懇願を続けます。
「あひいっ、いいですうっ、男の人っ、いいっ、キモチいいっ!!」
「男の人の・・チ・・チ〇ポ、チ〇ポがイイんですうっ!」
「もっと・・・もっとください、チ〇ポ、膣内に、ナカにください、子宮が焼けるぐらいにっ!そそぎこんでくださぁいっ!!」
「お尻のアナっ!いいっ!直腸にみんな出してくださいっっ!!」
「私っ、わたしいっ!マゾなんですっ!みんなに見られて悦ぶっ、へ・・変態っ、なんですぅっっ!!
だからっ、もっと、もっと見てっ!もっと目で、チ〇ポでっっ、犯してえっ!!
ヘンタイでえっ、マゾ女のぉぉっ!!わたしにいっ、いっ・・・ばぁい、流しこんでくださいいっ!!」
男の人が次から次へと私に乗りかかり、犯し、身体のあちこちにぶちまけていきます。

私の隣では、お姉さまが人間としての理性がかき消されたかの様に乱れ、男根と精液の乱舞に身体をよじり、悦びに満ち溢れた表情で輪姦されています。
「あはあぁぁぁっっ!!気持ちいいいっっ!!ち○ぽっ、ち○ぽいいのおぉっ!!」
「こすれるうぅっ!!ま、ま○こっ!ま○こいいっ!!もっと、いっぱいっ、出し入れしてっ、ま○こっ、ズポズポォっっ!!」
「アっ、アナルっ!!ケツ穴いっぱいいいっっ!!ケツの穴っ、ゴリゴリしてっ!!」
お姉さまは積極的に男根にむしゃぶりつき、精液を吸い出しながら夢中になって腰を動かしています。
私たちは正気を失い、淫猥な叫びを羅列しながら、半ば白目になった瞳で、ただひたすら男の人たちとのセックスをむさぼります。
「あひぃっ!!、男のひとっ、チ○ポいいっ!!」
「いっ、いひぃいいっっ!!ち○ぽでっ、ち○ぽでえっ!ア、アナっ、アナのなかぁっ!掻き回してえっ!引きずり出してえええっっ!!」
「おしりいっ!アナルいいっ!!出してえっ、ナカでえっ!!いいっ!腸が焼けるぅっ!!」
「もっとおっ!!ケツにいいいっ!精液浣腸おっ、ブチ込んでえぇっ!!」
「おいしいっ!!男のひとの味っ!!精液っ、ザーメンだしてえっ!!」
「んぐぅっ、ぷはぁっ、もっとっ!もっとのませてえっ!!精子っ、せえしっっ!!ち○ぽ汁ぅぅっっ!!」
「あぁぁぁっ、いい匂いいっ!!もっとカケてっ、ザーメンっ、もっとあびせてくださいっ!!」
「カケてっ、身体中っ!ぬるぬるぅっっ!!ぶっかけてっ!!精液びたしにしてっっ!!ち○ぽ汁につけこんでえっっ!!」
狂った様な激しいセックスが私とお姉様の脳を完全に麻痺させます。
程なく、私たちは今日何度めかの絶頂に達しました。
「おねえさまっ!わたしっ、いっ、いっちゃいますぅっ!!」
「あたしもおっ!!イギィっ、いぎそうぅぅっっっ」
「わたしっ!もっ、もうっ!イクっ!イッちゃうぅぅぅぅっっっ!!」
「イグっ、イクイクイクイクぅぅっっ!!!」

男の人たちが満足する頃には、私たちはもう全身が真っ白になるくらいに精液をぶっかけられていました。
お尻の穴は開きっぱなしで、内側の肉が捲れあがっています。
陰唇は変形し、精液が音を立てて逆流しています。
私とお姉さまは拘束されたままで、互いの身体にぶちまけられた精液を音を立てて舐め合い、すすり合います。
まるで小猫がじゃれ合う様・・・と言うよりは、お互いの身体にこびりついた精液を奪い合うようにして舐め合っているといった感じです。
私たちは拘束された身体を必死に伸ばして唇を吸い合い、舌を絡め、いつまでも、身体にかかった精液を舐め合っているのでした。

獣のようなセックスの宴が終わると、外はすっかり暗くなっていました。
御主人様はこれから下校する私たちの為に「おみやげ」をご用意されていました。
まず御主人様は私たちを床に四つんばいにさせると、おもむろに机の上から二リットルは入りそうな、大きな浣腸器を取りだしました。
次に、その隣に置いてあった「グリセリン溶液」と書かれたバケツの中身を吸い上げ、ガラスの浣腸器が液体でいっぱいになると、
御主人様は私のお尻の穴に注入口を差し込み、中身が空になるまでピストンを押し込みました。
注入が終わると、すぐに猛烈な便意が襲ってきます。
御主人様はヒクついた私のお尻の穴を確認すると、さらに穴の中にコード付きのバイブレーターを押し込みました。
そしてお姉さまにも同じ「仕込み」をすると、今度は二人の膣にそれぞれコードレスのリモコンバイブを挿入しました。
私とお姉さまが二本刺しのまま、新しいブルマに履き替え、制服を着込むと、御主人様は袖口からバイブのコードを通し、
両面にスイッチのある円盤状の電池ボックスに接続しました。
御主人様によるとこれは「デススイッチ」なのだそうで、一度両側のスイッチを押さえるとバイブが待機状態になり、
手を放すとバイブがONになって強烈な振動が発生するしくみなのだそうです。
しかも、もしスイッチから手が離れて、接続されているコードが外れると、
バイブに内蔵されたポンプから媚薬入りの浣腸液が追加注入されるそうです。
御主人様は私とお姉さまの手を繋がせると、その間にスイッチを挟み込み、お互いにぎゅっと握らせ合いました。
私とお姉さまはしっかりと手を繋ぐと、「おみやげ」を仕込まれて、便意と快楽に震えながら校門を後にしました。
しかし、その時既にお互いの頭の中には、スイッチを離し、コードを引き抜くタイミングの事しかなく、
制服の下のブルマは期待と欲望にぐっしょり濡れて蜜を滴らせていたのでした・・・。

・・もし、貴方が夜の電車で二人組の女学生が手を繋いでいるのを見かけたら、
それはひょっとして・・・私たちかもしれませんね。

# 次回予告

燃えジャスの委員長かな？
そろそろ，ゲーム以外のキャラでもいいかなぁ
・・・と思ったりしてます。

約１年ぶりになってしまったので，今年中にはもう一冊できたらいいな，と思う今日このごろです（＾＾；）

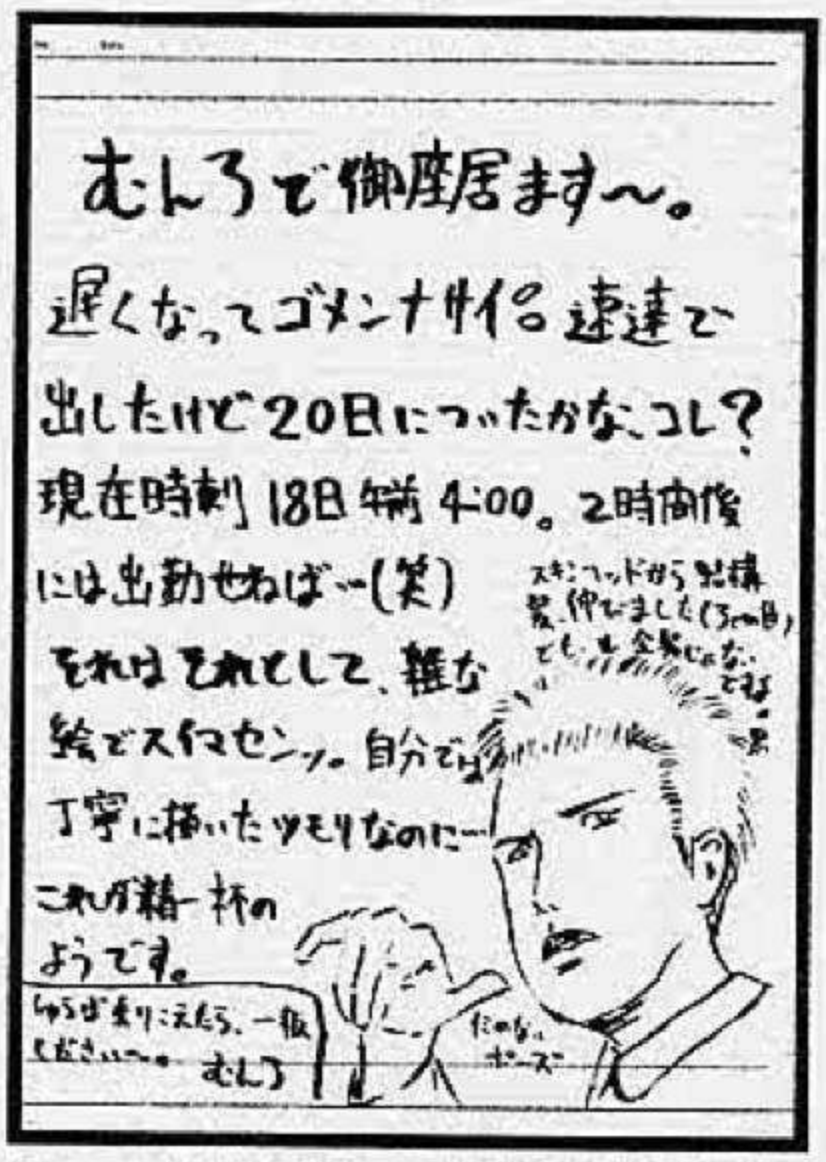
前回のブルマニアで，初めて「委託」してもらったのですが，
無事に完売することが出来て，
嬉しかったです。 弱小には「賭け」なの・・・(笑)

これからもがんばります～

続いて第3問、これから言うキーワードでゲーム名を当ててください！
ズ
爺さんからまいります、「爆走トロッコ」
さー、爺さんあとがありません次行きましょう！「うなれヨーヨー」
グ、グーニーズ2!!
「爆走トロッコ」さて、なんのゲームでしょうか？
スペランカー？
ブー!!
んー、残念！答えは「忍者じゃ丸くん」でした！
惜しい！答えは「アルゴスの戦士」でした！
わかるか、そんなもん！
さあ次は帝王さんの番です、よろしいですか？
ごくり
「キックだ葵ちゃん」「キックだ葵ちゃん」さー、なんのゲームかー？
爺さん失格で、帝王さん、次当たれば熱海温泉宿泊券!!
さあ行きます！
ごくり
トゥハート。
ピンポン
正解です！帝王さんに500点追加されます！
トゥハート。
「特ダネ志保ちゃんニュース」！
なんじゃそりゃあ!!

# ★ブルマニアヨーグルト制作委員会★

ゲスト：むんろくん




ファックスで送ってこられたとき、
ぜひウチの同人誌に使わせてくれ〜
と頼んだのでした（笑）
なんていうか、爺が似てるし・・・
エロのナカのオアシスをありがとう。

---

●せんせ
大いにお世話になりまくりました。
修羅場合宿の場を提供していただいたり、
お菓子や、ご飯もゴチになり、
パソコンまで借りる始末・・・
いや、ほんと助かりました！！
この恩は仇で・・・じゃなく、下僕デーを
作りますので、なんでも言うこと聞きます（笑）
●垣野京子　後輩氏
ドラブやーん、休みの度に修羅場に来てくれて
ありがとう♪大半は君のおかげやね。
今度必ず紅茶がぶ飲みツアー組むから！！
素敵なトーン貼りセンキュでした。
●CARRY-S（伝説のアシ長）氏
超ワガママなのに、結局手伝いに来てくれる
そんな貴方にフォーリンラヴｖｖ
そして、ブルマニアロゴを華麗に
作っていただき感謝感激ラジ〇ニアっス（笑）
また頼むよ〜（切実）小説のチェックも夜分にありがとう。
●瀬良　槙さま
自ら志願？していただき、ありがとうございます♪
しかも有給使ってまで・・・・（爆）
かりんお嬢様の薔薇トーン、むっちゃいいですワ。

白いヤツに買ってもらえるように
がんばりまーす（笑）
…女体ばっかりかいてると
つかれるンスよ…。

# あとがき.

帝 おつかれさまでした。…といいながら
こちらは にっちもさっちもいかない様子
でございマス(笑) こ〜ん〜な〜ハ〜ズでは

鈴 おつかれさまでございます〜。こちらは
やっとこさ自分のパートが終わった所で
ございます。ふ、ハ〜 (笑)

帝 バカモノ!! きみがぱそこんをせんりょう
してたので 泣いているんじゃないか!!! (苦笑)
へたしたら 手書きがふえてしまう…
いやはや、めずらしく入稿してるハズなんスが
いつもいうセリフは「もっとはやからやっときゃ
よかった…」につきますね

鈴 いやま、まったくですな…って、
今回かなり早くからスタートして
おりましたが…ねえ。(笑)
すべて私の遅筆の為でございま。
トホホ…(泣)

帝 まあ、がんばりましょうや
ところで今回はまた
濃く描こうと努力したの
ですが…
どうなんでしょ?
この本、殿方の
役にたつの
でせうか?
(笑)

鈴 むう…
(笑)
おそ
らくは
夜の行楽の
おともに
りっぱに役立っていることでしょう。(笑)

帝 そうだといいんじゃが…
って行楽って十二よ?
運動会かにゃー。近所のナオンを
見に行くんじゃよ——!!(爆)

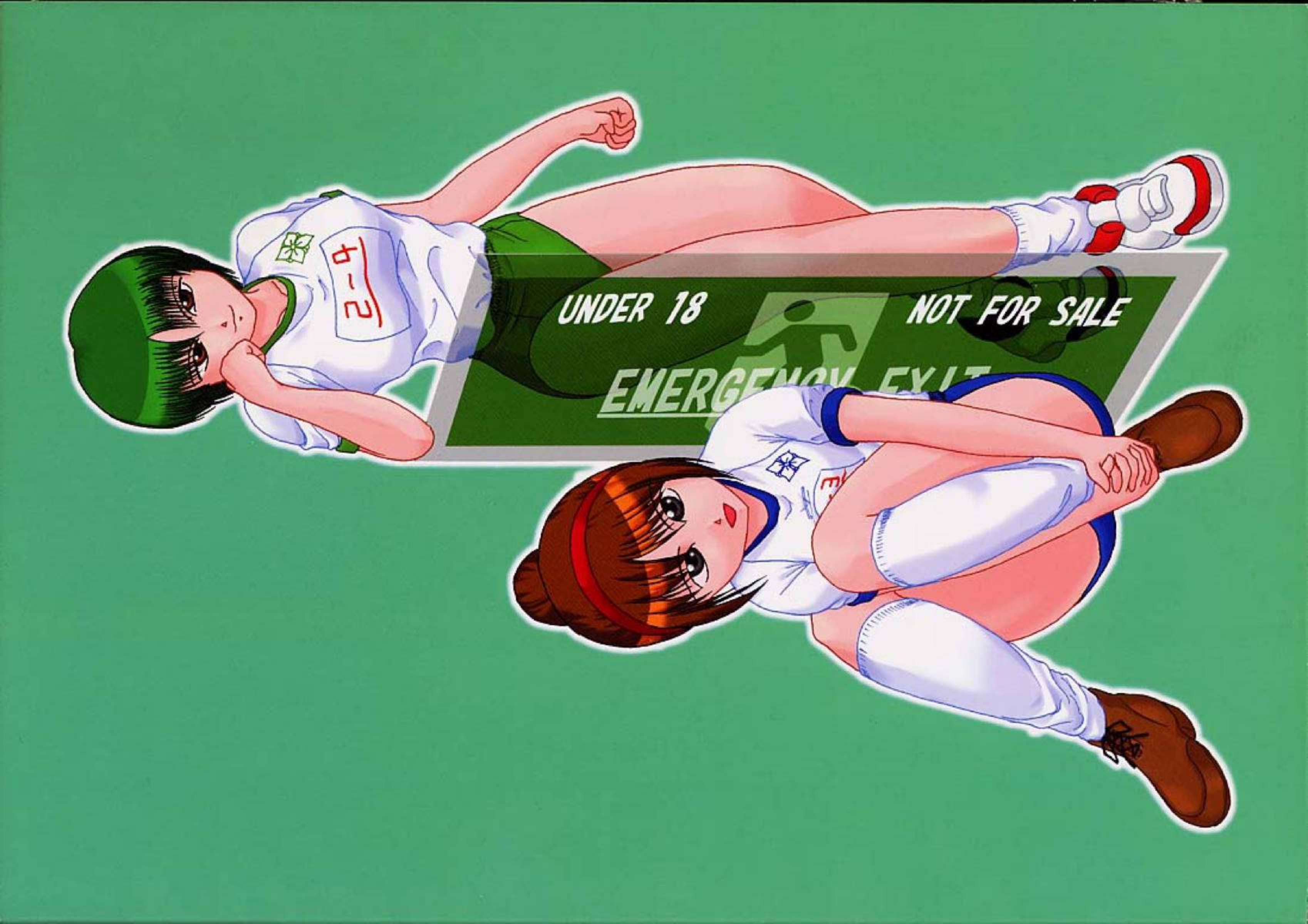
鈴 もしてお持ち帰り。学校の前に車を横づけにして
ドライブスルー風にナオンをテイクアウトするのがポイントです。
よい子はまねしないよーに。

帝 ぶるまっ娘ゲットだぜ——!!!(きいてねえ…)
というわけでありがとうございました——ミ

Tei-oh.K
'01.06.19

帝王&鈴. せんせの家にて(爆)

2-4


UNDER 18
NOT FOR SALE
EMERGENCY EXIT